

## クマイザサ

クマイザサの花が咲いた。

北海道でクマイザサが開花・結実したもっとも新しい記録は昭和 14～15 年にかけてのもので、このときには天塩・北見地方に始まり、その後、道央・道南地方におよんだとされている。それから 40 年が過ぎた。

一説に、ササの開花・結実は 50 年に一度とか、60 年に一度とかいわれているが、これはめったにおこらないことの俗説なのだろう。

勇駒別の、標高 800m のところにある天然林生長試験林を調査した帰りみち、ふと目の前に 2 本のササの花穂がみえた。みまわすとエゾマツの樹冠下に 10 m<sup>2</sup> ほどかたまって咲いている。円錐形をした花穂を形成する小穂は、うす緑からうす紫へとかわる穎（えい）で被われた穎果を 7～9 個、交互につけている。2 枚の穎の間からは、雄ずいが顔を出している。

ようやく暮色のせまりつつある林内で、それらはひっそりとササの葉の上にぬき出していた。

今日は、折しも「七夕」である。

(自然保護科 前崎武人)

